

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれやか ことぶき
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	北海道北見市
記入者名 (管理者)	後藤 真知子
記入日	平成 20 年 3 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性にやや乏しい理念だった為、再検討している。	○	これまでの理念を基盤に、地域との関係性の継続強化を盛り込んだ理念を作り取り組んでいる
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り、ミーティングでどうしても理念に基づきケアできるかをスタッフに伝え確認している	○	日々のサービスの中で理念がより実践されるよう、話し合い意見の統一化を図っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族へは面会時等、折に触れ伝えている。	○	御家族訪問や運営推進会議等時、説明し理解してもらえよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	GH周辺では進んで挨拶しており、隣の商店へは入居者さん共々利用させてもらっている。	○	回覧板を回したり、散歩の際の声掛け、庭のお花を見せて頂く等により、交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へは加入している。	○	市民合唱会に参加予定。地域の一員として地域活動に参加して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れをしている。	○	GHとして何が出来るか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の目的を職員に分かりやすく伝えている。	○	外部評価の結果は皆で把握し改善に向け検討していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アドバイス、要望等、伺い検討している。	○	外部評価の結果や課題について報告していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の空き情報や利用者の経過状況等情報交換している。	○	これを機会に積極的な連携に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業・成年後見制度の講習会受講し現在4名の入居者申請中。	○	職員へは必要に応じて伝えていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のサービスの中で虐待が起きないように、見過ごす事の無い様注意している。	○	高齢者虐待防止法に関する意識、理解をさらに深めていけるよう学ぶ機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="radio"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。	<input type="radio"/> 不安や疑問点等については面会時等に話しやすい雰囲気を作っている。
13	<input type="radio"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や言動からその思いを察する努力をし利用者本位の運営を心掛けている。	<input type="radio"/> 不安や意見はその都度、話しやすい雰囲気の中で話して頂いている。
14	<input type="radio"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず近況報告をし、行事や日常生活の写真等見て頂いている。金銭管理については出納帳確認、サイン頂いている。遠方のご家族へは郵送にて出納帳、生活状況等お知らせしている。	<input type="radio"/> 利用者の精神状態、健康状態により、都度報告させて頂いている。
15	<input type="radio"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している	<input type="radio"/> 何でも遠慮なく言って頂ける様な雰囲気づくりに配慮している。
16	<input type="radio"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図る様に心掛け、会議時、意見を聞いている。	<input type="radio"/> 個別に話を聞く機会を作っている。
17	<input type="radio"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の急病や急な休みの時、柔軟な体制が取れる様、余裕ある人員を確保し調整している。	<input type="radio"/> 管理者は状況に応じた対応が出来るようにシフトに入っていない為、夜間の対応や著変時、柔軟な体制を整えている。
18	<input type="radio"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、顔なじみの職員によるケアを心掛けている。	<input type="radio"/> 職員交替時にはご家族の不安や不信感を無くすためにも都度、説明させて頂く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修には出来るだけ職員が受講できる様に勧めている。</p>	<p>○</p> <p>研修報告は全体会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業所との交流やグループホーム協議会の勉強会等に参加し質の向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>サービスの質を向上させていくため勉強会等へ積極的に参加していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の親睦会を作り定期的に交流している。人間関係等でのストレスが軽減できる様に個別に話を聞き出す場面を設けている。勤務中の気分転換が図れるように休憩室を確保している。</p>	<p>○</p> <p>職員の、精神的変化を早期に発見できる様、個別に話が出来る場を今後も設けていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の具体的努力や実績、勤務状況等把握している。資格取得に向けた支援をしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の仕事に対する思いや、努力が分かるようなチェックシートで自己評価してもらっている。</p>
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状態、健康状態を把握するよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>御本人の思いや不安を受け止め安心してもらうことから始めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の状況、不安・苦勞・サービスの利用状況等をゆっくり聞くように心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>話しやすい雰囲気の中で意見、要望伺いながら信頼関係を築いていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望を確認し、他サービスにつなげる等の対応をしている。	○	地域包括支援センターや地域のケアマネジャーと連携しながら必要に応じて他サービス機関につなげていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に極力、ご家族とご本人にも来初し、雰囲気等を見て納得された上で入居を決めている。やむを得ずすぐ利用になった時は、ご家族や関わりのある人に来てもらうなどで安心感を持って頂けるようにしている。	○	安心と納得を大事にした支援を心掛けていく。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えから日常的に教えてもらう場面が多く持てる様に言葉掛け等に配慮している。	○	思いや、不安、喜び等を知ることに努め、常に感謝の言葉をかけ、暮らしの中で共に支えあえる関係づくりに留意している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診の対応や洗濯物を依頼するなど協力を得ている。	○	利用者の様子や職員の思いを伝えていく事で徐々に協力関係が築けるように努めていく。 洗濯物、受診等をお願いし共に支えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は利用者本人の様子をきめ細かく報告・相談し、行事等へ誘ったりしながら良い関係の継続に努めている。	○	面会時はご家族と利用者の絆を大切に考える。 利用者の誕生会等への参加についても企画していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの場所へ行ったり、知人に会いに行ったり、会いに来てもらったり、電話連絡等でのつながりを支援している。	○	ひとり一人思いを尊重していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整し支援している。	○	感情や気分、心身の状態で一日の中でも変化する為、注意深く見守るようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退去された方へお見舞いに行き様子伺う、電話を頂く等している。	○	退去後も相談があれば対応している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での声掛けや表情観察により把握に努めている。	○	思いや意思についてそれとなく確認し把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の中での本人の話やご家族、知人等の面会時等、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを理解し、小さな動作や行動から感じ取り、利用者の全体像の把握に努めている	○	生活記録、申し送り、口頭での申し送り等により周知していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、ご家族には日頃のかかわりの中で意向、意見を伺いプランに反映させている。アセスメントを含め職員全体で意見を出し合い、モニタリング、カンファレンスを実施している。	○	利用者主体で必要な支援を組み込んだ介護計画になる様に努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人やご家族から要望があったり、期間内でも状態のに変化があれば、検討見直しを行っている。	○	状態に合わせ臨機応変に介護計画を変更していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態の変化、本人の言葉、エピソード等を個別生活記録に記載し、職員間の情報共有している。記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。	○	日常生活の変化については勤務前に送り簿、口頭で周知している。ケアプランもいつでも確認できるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望により受診、送迎、入退院送迎介助等必要な支援は柔軟に対応し、安心感、満足感を高めるように努力している。	○	医療連携体制が取れるように依頼、申請中
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の交番と連絡調整している。	○	利用者が安心した暮らしを継続できる様、民生委員、町内会長等、運営推進会議に参加頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	図書館の利用やご本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用している。	○	今後 利用者、ご家族の希望があった場合には、他のサービスもうけるよう勧めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要な利用者には権利擁護事業契約申請中	○	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してくれるため、これを機会に関係を強化したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院の他、入居前からのかかりつけ医に受診できる様、ご家族と協力して受診介助を行ったり、往診して頂くこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	適切な指示や助言をしてくれる精神科医がいる。	○	専門医とは相談、アドバイスを頂く等、関係を密にしている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に准看護師がおり健康管理、医療活用の支援をしている。	○	医療連携体制が取れる様に依頼中
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはなるべく混乱を少なくするため状況や特徴等の情報を提供し、不安がない様に出来るだけ面会を多くするようにしている。ご家族とも連絡を取り合い、退院へ向けて支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や急変時についてご家族の意向を伺い、医師の指示を仰ぎ、全員で方針を共有している。	○	重度化に伴う意思確認書の作成を検討していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を伺い安心して頂ける様に随時意思確認しながら対応している。	○	僅かな変化についても申し送りにて病状や症状を把握し、ご家族、医療機関と連携をとり対応している。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在のところ住み替えによる退去者はいない。	○	今までの状況や習慣、工夫してきた介護等の詳しい情報を提供していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他利用者や面会者の前でプライバシーに関する事は話さない様に徹底している。	○ 個人情報等の守秘義務について周知徹底している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の状態に合わせて自己決定できる様な声掛けをしている。	○ 小さなことでも自分で決めたり、選んだりできるように配慮している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや体調、状態に配慮しながらひとり一人のペースを大切に柔軟な対応をしている。	○ 些細なことでも利用者の思いに添った生活が出来るよう支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所に理美容店あり、出張してもらい好みのヘアスタイルにもらえるように支援している。	○ 起床時、入浴後の着替えは本人が選ぶ、又は意向により決めている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	色合いや季節感に配慮し、作り方を教えてもらったり、味を見て頂き、職員と共に楽しい食事になる様にしている。	○ 配膳、下膳、食器洗い等、分担して行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日会には誕生日者の希望のメニュー聞き出している。好みを把握して食べられない場合は別の品を用意している。	○ 喫煙については職員が煙草、ライターお預かりし希望時は空気清浄機のある場所で吸って頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しトイレ誘導によりトイレで排泄できるように支援している。	○	プライバシーに配慮した声掛け誘導に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認し入って頂いている。	○	入浴拒否多い方には職員間の連携により入浴できるように支援している。不安感や羞恥心などに配慮している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お昼寝される方へはリビングでも休んで頂き、クッションや毛布等用意している。湯たんぽを入れ就寝時、温かい寝具で休めるように配慮している。	○	夜間眠れない様な時は温かい飲み物をお出しゆつくりとお話できる様に配慮している。 夜間の様子を巡回時間毎に記録することで睡眠状態を把握し、日中の過ごし方に配慮している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ること、出来ないことの把握に努め、お手伝い頂いた時には感謝の言葉を忘れず伝えている。	○	昼・夕食前に嚙下体操も兼ねて大きな声で歌って頂いている。又、カラオケやゲームにより気晴らし出来る様に支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族からお金をお預かりし事務所で管理している人でも、買い物に出かけた際は本人が支払えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、食事、神社参拝、ドライブ等の希望に応じている。	○	外食やお弁当持参で戸外に出かける等、計画していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたい所の把握に努め、昔懐かしい知人宅、神社参拝等、外出の支援をしている。	○	御家族にも働きかけ協力を得て外出支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用可能な状態にし、電話の内容が他者に聞こえない様に配慮している。 手紙もいつでも書ける様にける準備、支援している。	○	暑中見舞いや年賀状も出せるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の遠慮につながらない様に、気兼ねなく来て頂く。 面会時間は設けず仕事帰り等、寄って頂いている。	○	お茶やおやつ時には一緒に食べて頂く様にしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	○	拘束のない介護を継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	6:00～21:00は施錠していない。	○	外出しそうな様子あれば強引には引き止めず、さりげない対応を心掛けている。又は一緒について行き安全面に配慮している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じ空間で記録等を行い、さりげなく状況把握に努めている。	○	夜間は一時間毎に利用者の様子を確認し、安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況により所持しているもの、出来ないものがある。	○	厳重保管しているもの、使用時に注意が必要なものを把握している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態の把握に努め転倒、誤嚥等の危険性について検討している。ヒヤリハット報告記録等により、今後どうしたら防止できるかの検討又家族への報告説明を行っている。	○	リスク、危険の可能性を今後も検討し事故防止に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防の協力を得て応急手当、蘇生術の研修を実施している。 応急手当の、緊急時のマニュアルを整備している。	○	講習後に採用した職員に対しマニュアルを活用し指導、また定期研修実施依頼していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で協力を呼び掛けている。	○	消防の協力を得て避難訓練等実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測できるリスクについて把握し、必要に応じてご家族に説明している。	○	職員全体で起こりうるリスクについて対応策を検討している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色、食欲、表情等の観察をし、兆候を見落とさない様注意している。変化あればバイタルチェックを行い記録をつけ、医療へとつなげている。	○	全身状態の把握と情報の共有にて異常の早期発見に努めていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋綴りはいつでも職員が確認できるようにしている。処方の変更時には申送り簿にて周知している。	○	服薬時には氏名、日付け、朝、昼、夕かを読み上げ、飲み込むまで確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向ある利用者については起床直後に冷水、牛乳を飲んで頂いたり、軽い運動や、腹部マッサージ等を行い、自然排便できる様に工夫している。	○	継続し予防に努める
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアと週二回の義歯漬け置き洗浄実施している。	○	口腔内の状態により歯科受診している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量はチェック表で把握している。	○ 不足の時や食欲低下時等にはゼリー、果実、好みの物を食べて頂いている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてはペーパータオル使用している。	○ 利用者、職員共に外出後、出勤時は手洗い、うがい、手指消毒実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器は毎食後消毒し、台所は常に清潔であるよう心がけている。	○ 残った食材を新鮮なうちに無駄なく使用していくように努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはベンチ、プランター等を配置し明るい雰囲気になっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔を心掛け、季節ごとの飾り付けや利用者の貼り絵、写真等貼り出し、気持ち良く、居心地の良い空間になる様に配慮している。	○ 職員全員が日常的にストレスになる様な事はないか、居心地はどうか注意を払っていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙者には喫煙場所を確保し、リビングでは自分の落ち着いた場所が出来ている。	○ 廊下にも、くつろげるスペースを検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物(箆笥、椅子)や写真、好みのカーテン等を持参して頂いている。	○	居心地良く過ごして頂けるように配慮していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機や加湿器を使用し一日数回温度、湿度チェックして快適に過ごして頂けるように配慮している。	○	居室に洗濯物を干し、就寝時は乾燥防止のため濡れバスタオル、希望者には湯たんぽ使用して頂いている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な個所には手すり設置している。	○	利用者の身体状況に応じて設置していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室にはプレートをつけ、夜間トイレが分からない事がない様に電気はつけ放している。	○	不安や混乱がないように状況に合わせて環境整備していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き外気浴、気分転換を図っている。プランターに花を植え、水やり等を楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)